

応答表現としての「かしこまりました」

黒 崎 佐仁子

抄 録

「かしこまりました」は、いつ、どのような場面で用いるのか。本稿では、「かしこまりました」が使われる会話を複数のコーパスから集め、先行文を表現意図から分類した。最後に、「かしこまりました」が使いにくい場面について言及した。

キーワード：応答表現，表現意図，依頼表現，指示表現，理解要請

1. 問題の所在

留学生と日本語でやりとりをしていると、日本語を母語とする学生があまり使用しない表現と出会うことがある。本稿では、その中の「かしこまりました」を取り上げる。以下は、留学生とテキストチャットで行ったやりとりを参考に、筆者が作成したものである。

例1 教員：また困ったことがあったら、すぐに連絡をくださいね。

学生：はい、かしこまりました。悩みを聞いていただき、ありがとうございました。

例2 教員：[授業名]を履修したい場合には、必修科目の時間割変更が必要です。ただ、それは、学生ではできません。[授業名]を履修したい場合には、ご連絡ください。こちらで、変更します。

学生：かしこまりました。よろしく願いいたします。

例3 教員：明日のお昼休みに追試験を行いたいのですが、来られますか？

学生：はい、かしこまりました。明日、試験に行きます。

例4 教員：貸した教科書で、もう使わない教科書は返してください。研究室の前に箱を置いておきますから、そこに入れてください。

学生：はい、かしこまりました。明日持っていきます。

例5 学生：登録した授業が取り消されてしまいました。

教員：人が多すぎたんだね。

学生：かしこまりました。

上記のような場面で、日本語を母語とする学生は「承知しました」または「了解しました」を使用していた。「かしこまりました」も「承知しました」も謙譲表現であり、日本語母語話者が「かしこまりました」を選択しないことを「かしこまりました」が丁寧すぎるからだとするのは、十分な説明とは言えない。神永（2021）は、「「かしこまりました」はどうしても、商売人や、使用人が使うことばだという印象を受けてしまうのではないだろうか。」⁽¹⁾と書いているが、山崎（原作）・井上（脚本）（2004）⁽²⁾では、例6のように義理の親子関係にある二者の会話でも「かしこまりました」が使用されていた。

例6 主人公の義父：ほな、明日や、明日は仕事終わったら来なはれや。

主人公：かしこまりました。

本稿は、上記の例を念頭に置き、「かしこまりました」が使用されやすい人間関係および場面について、留学生に解説できるよう整えることを目的とする。

2. 辞書における説明

辞典における「かしこまりました」の記述を確認する。『日本国語大辞典』では、「かしこまりました」について、「(つつしんで言いつけをお受けする意から) 相手を高めて、「承知した」「わかった」という意を、ていねいに表わす挨拶のことば。」⁽³⁾と記載している。『デジタル大辞泉』は、動詞「かしこまる」に、「3 命令・依頼などを謹んで承る意を表す。承りました。「はい、一・りました」」⁽⁴⁾と記載している。

「かしこまりました」の語源は、「畏まる」という動詞にあるため、『日本国語大辞典』における「かしこまる」の解説を以下に引用する。

- (1) 相手の威厳に押されたり、自分に弱点があったりして、おそれ入る。おそれつつしむ。
- (2) 高貴な人が自分に対して示した行為を、もったいないと思う。恐縮する。また、礼を述べる。
- (3) 申しわけなく思うようすをする。また、わびをいう。
- (4) 目上の人を怒りを受けて謹慎する。
- (5) つつしみを表わして、居ずまいを正したり、平伏したりする。
- (6) つつしんで命令を受ける。つつしんで承諾するの気持を表わす。
- (7) (助動詞「た」を伴って) 堅苦しくて、きゅうくつな感じがする⁽⁵⁾。

『日本国語大辞典』では、「かしこまりました」は(6)からの派生であるとされているが、(1)

から (7) の解説より、「かしこまる」の行為者は、威厳がある、高貴である、目上である相手に対し、おそれ入る、恐縮する、申しわけなく思う、謹慎する、平服する、つつむ、堅苦しいという感情を持っていることを示しながら、相手のことばを受け入れていると言える。

3. 先行研究

森山 (1989) は、応答を談話展開標識の一つとし、その特徴として以下の3点を挙げている。

①用法的に、先行するコンテキスト (通常は何らかの発話) を必要とすること、②形式的に、応答のサインとして慣用されることにより、定形化していること (ただし、機能語化してなくてもよい)、③機能的に談話運用上の聞き手側の情報伝達行為に対するサインとして機能すること (p.72)⁽⁶⁾

そして、先行文のタイプによって、つまり、命令や意志文のような動きを要求する文の場合と、情報を伝達する文の場合とで、応答は分類されるとする。そこで、本稿も、先行文のタイプで「かしこまりました」を分類する。

4. 日本語学習者向け教材における記載

「かしこまりました」に関する記載があった日本語学習者向け教材3種を取り上げる。

資料 a 岩澤みどり・寺田則子『日本企業への就職—ビジネス会話トレーニング—』アスク出版 2006

資料 b 金子広幸『初級が終わったら始めよう 新にほんご敬語トレーニング』アスク出版 2014

資料 c 日本漢字能力検定協会『マンガで体験! にっぽんのカイシャ〜ビジネス日本語を实践する〜』日本漢字能力検定協会 2019

資料 a では、「かしこまりました」は、「「わかりました」「承知しました」的自謙表現。」(p.33)、つまり、「わかりました」「承知しました」の謙遜表現であると解説され、資料 b では、「サービスでよく使われる表現」であり、「かしこまりました。(=わかりました)」(p.95) であると提示されている。資料 c は、日本の会社でよく使われる言葉「オフィスのことば」(p.18, p.20, p.22) に「かしこまりました」を含めている。以下、資料 abc から場面とともに会話例を提示する。ただし、表記には、筆者が変更を加えている。

例7 資料 a [社外の人からの電話を取り次ぐ場面] (p.28-29)

B : (社名・部署) でございます。

A：いつもお世話になっております。(社名)のAと申しますが、(部署)のC様はいらっしゃいますか。

B：少々お待ちください。申し訳ございません。Cはただいま席を外しております。3時の帰社予定となっておりますが……。折り返しお電話させましょうか。

A：では、折り返しお電話いただけますか。

B：はい、かしこまりました。

例8 資料b [レストランで注文を受ける場面] (p.97)

客：すみません！注文、お願いします！

店員：お決まりですか。

客：はい。A ランチコース1つと、ステーキランチコース2つ、お願いします。

店員：かしこまりました。

例9 資料c [社外の人との電話で会う時間を決める場面] (p.23)

A：一度おうかがいしたいのですが。

B：ええ、ぜひお越しくください。

A：では、6月30日14時におうかがいいたします。

B：6月30日の4時でございますね。

A：いいえ、14時です。

B：失礼いたしました。14時、午後2時ですね。かしこまりました。お待ちしております。

上記の例からは、「かしこまりました」は、サービスやビジネスで用いられる表現であり、「わかりました」の敬語表現であると捉えられていることが分かる。

5. 「日本語日常会話コーパス」の用例

「日本語日常会話コーパス」における「かしこまりました」をコーパス検索アプリケーション中納言 (<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>) (2022.11.02 確認) で確認した。その結果、49件を得ることができた。このうち、27件が飲食店での会話であり、このうち26件に「店員」、1件に「おかみ」という話者ラベルが付けられていた。これらの会話は、例8のように店員が注文を受ける場面となっていた。この他、10件は、美容院での会話で、同一会話内に10回「かしこまりました」が使用されていた。

例10 美容師：そしたらじゃ下ろせる感じでいきましょうか

客：うん そうっすね

美容師：そうすれば二カ月後パーマいけると思うんで

客：うんうん いけますか

美容師：はい

客：じゃ前髪はそれぐらいにします

美容師：かしこまりました

また、8名が参加する「大学で同僚・取引先と会議」の会話が1件あった。

例 11 A：そのリストを見てみたいなと思います

B：はいはいわかりました

A：お願いします

B：はいはい かしこまりました

例 10 の「前髪はそれぐらいにします」は「前髪はそれぐらいに切ってください」、例 11 の「お願いします」は「リストの用意をお願いします」に言い換えられると考えれば、例 7、8 と同様に注文や依頼に対する応答として「かしこまりました」が使用されたと言える。

これに対し、同僚同士という関係の二名が業務について話している会話では、同一会話内に 8 回「かしこまりました」が使われていたが、これは依頼に対する応答とは言えない。

例 12 A：こっちがインでこっちがアウトとこんな感じです

B：はい かしこまりました

例 13 A：あとの人は大体去年からずっとやっている人です ええ

B：ああ そうですね (A：はい) かしこまりました

例 12、例 13 の「かしこまりました」は、B が A の説明を理解したことを表明するために用いられている。この他、家族間での会話、同僚間での会話の例があったが、音声を確認した結果、冗談として用いられていた。

6. 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」の用例

「現代日本語書き言葉均衡コーパス」における「かしこまりました」をコーパス検索アプリケーション中納言 (<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>) (2022.11.02 確認) で確認した。本章では、「図書館・書籍」「特定目的・ベストセラー」「出版・書籍」を合わせた 105 件を書籍として取り上げる。作品では 78 件、著者では 60 件となる。作品 78 件のうち、23 件が翻訳作品であった。

105 件のうち、同一作品から 2 件以上検索された作品に限定、更に、同一著者の作品が複数ある場合、検索された数が多い 1 作品のみを取り上げた。用例は、それぞれ作品の書籍を紙媒体または電子媒体で入手し、作品全体の中から「かしこまりました」の出現を目視で確認した。上下巻や中下巻となっている作品は、そのすべてを対象としたが、シリーズ作品となっているものに関しては、対象外とした。取り上げたのは、以下の作品である。

資料 d 赤川次郎『探偵物語』角川書店 1982

- 資料 e 五木寛之『蓮如 われ深き淵より』中央公論社 1995
- 資料 f A・B・コックス（著）小林晋（訳）『プリーストリー氏の問題』晶文社 2004
- 資料 g オークシイ（著）中田耕治（訳）『紅はこべ』河出書房新社 1989
- 資料 h 実著者不明（著）三枝充恵（訳）『ブッダの入滅—現代語訳「阿含経」—』青土社 2000
- 資料 i 澤田ふじ子『惜別の海』上中下巻 幻冬舎 2002
- 資料 j シドニイ・シェルダン（著）天馬竜行・紀泰隆（訳）『真夜中は別の顔』上下巻, アカデミー出版 1992
- 資料 k 杉山美奈子『人に好かれることばレッスン—気持ちがちんと伝わる話し方—』大和書房 2004
- 資料 l 村岡正雄『誰も教えてくれない—一人前の受け答えと話し方』日本実業出版社 2002

k と l は、言葉遣いに関する書籍である。k では、「オフィシャルな場面で使うことば」(p.35)の中で「かしこまりました」が取り上げられており、「はい、かしこまりました(わかりました)」(p.37)のように括弧書きで「わかりました」が書かれていた。これは、第3章の日本語学習者向けの教材資料 b と同じ書き方である。l は、「ビジネス・コミュニケーションのために」(p.1)書かれたものであり、職場での言葉遣いを具体的に提示していた。l の会話を第4章と同様に、先行文で分けた。一部を表1と表2で提示する。

表1 資料lの先行文（依頼表現）

この文書をコピーして、顧客名簿の全員に発送してください／（事柄）の商品の、カラーについて教えてください／では、伝言よろしく願いたします／なにとぞ、お引き受けくありませんか／（事柄）のことでお話をおうかがいしたいのですが／じゃあ、これ、願いたしますね／（部署名）の（人名）を願いたします／じゃあ、この仕事はあなたに任せるよ／（人名）（部署名）部長にお目にかかりたいのですが

表1の先行文は、依頼表現である。これに対し、表2は、依頼A1に対し、B1が確認や依頼を行い、それに対する返答A2を受けて、B2が「かしこまりました」で応答している。

表2 資料lの先行文（理解要請表現）

A1 こんにちは。（社名）の（人名）と申しますが、（部署名）の方をお願いします
B1 （社名）の（人名）様でございますね。失礼ですが、ご用向きをおうかがいいたします
A2 …
B2 はい。かしこまりました。（部署名）に連絡いたしますので、しばらくそちらでお待ちいただけますか

A 1 それでは、…ということでお話をすすめていただけますか
 B 1 念のために、ご注文いただきました商品名と品数を確認させていただきます。…以上でよろしいでしょうか。／そういたしますと、お客様のご希望は（事柄）でよろしゅうございますか。
 A 2 …
 B 2 はい、かしこまりました。ありがとうございます

A2は「…」となっており、具体的な表現は書かれていなかった。しかし、「…」には、「(事柄)のことで、お話をうかがいたいと思ひまして」「(事柄)の件でまいりました」、「それで結構です」等が考えられ、B2の「かしこまりました」は、A1の依頼に対してではなく、A2への応答であると捉えられる。

ここで、先行文を蒲谷ほか(1998)を参考に、「行動表現」と「理解表現」に分ける。蒲谷ほか(1998)は、表現意図を「自己表出」「理解要請」「行動展開」に3分類している。このうち、聞き手の存在が必要となるのは「理解要請」と「行動展開」である。「行動展開」は以下のように定義されている。

行動展開……自己の感情・認識などに基づく「表現内容」が「相手」に理解されるだけでなく、それによって「相手」あるいは「自分」（またはその「両者」）が何らかの行動を起こし、その行動で「表現内容」が実現されることを意図するという「表現意図」(p.28)⁽⁷⁾

表1の依頼表現は、行動展開を意図した行動展開表現であると言える。これに対し、表2の「かしこまりました」をA2への応答であると捉えるならば、B2は行動展開表現への応答ではなく、理解要請表現への応答であると捉えられる。理解要請表現は以下のように定義されている。

理解要請……自己の感情・認識、知識・情報などが「相手」に理解されることを意図するという「表現意図」(p.28)

資料dからjにおける「かしこまりました」の先行文を「行動展開表現」であるか「理解要請表現」であるかで分け、一部を先行文の発話者（以下、「先行者」とする）と応答者の立場とともに提示する。

表 3-1 「書籍」における指示表現 (1)

行動展開表現	資料	先行者	応答者
シェリーをちょうだい／このテーブルに連れて来て／私、エスカルゴとオニオングラタンスープ。それに鹿肉ね／スープだけでいい	d	客	レストランの支配人

一時間で直してね／この人の言うことは気にしないでね	d	客	デパートの従業員
灯りを消してくれ／四、五日、お世話になりますから、よろしくね／何か冷たいものも出してちょうだい。それから（人名）がお着きになったら、すぐこちらへお通しして	g	客	宿の主人
お湯を持って来ていただけませんか？	f	客	宿のおかみ
開けてやれ／わたしの荷物は寝室に置いてありますから	j	客	タクシー運転手

表3-1は、客とサービス提供者の会話である。蒲谷ほか（1998）では、行動展開表現を行動、決定権、利益という点から類型化している⁽⁸⁾が、表3-1は、先行者の指示に応じて応答者が行動し、その行動に関する決定権は応答者にはなく、利益は先行者にあると言える。そのため、これらは、蒲谷ほか（1998）での「指示・命令」となる。

表3-2は、主人と主人を支える者という長期的な関係にあり、表3-1よりも上下関係が強い。

表3-2 「書籍」における指示表現（2）

行動展開表現	資料	先行者	応答者
何か食べたいわ／お茶だけ入れて／起こしてちょうだい五千円にしてもらって	d	主人	家政婦
お茶を運んでくれないか／客用寝室の準備を頼む／道具を持ってきてくれないか？／黙っていてくれ	f	主人	召使い
あの方とお会いしたいのですが／“さる婦人”とでも伝えてください	f	主人への訪問者	召使い
灯りを消して	g	主人	侍女
客間へお通しもうせ／伝えてまいれ／腰を上げてくれ／見張りをいたせ／一書をしたためてもらいたい	i	主人（侍）	従者
やめにいたせ	i	店の主	雇われ人

表3-2には雇用・被雇用の関係の上で成り立つ上下関係があるが、表3-3には地位としての上下関係、表3-4には師弟という上下関係がある。

表3-3 「書籍」における指示表現（3）

行動展開表現	資料	先行者	応答者
このことは誰にも漏らしてはならんぞ	f	大佐	警部

お引き取り願ってくれ／電話があったら、わたしにつないでちょうだい／きみに付き添いを頼みたいんだ	j	上司	部下
事にそなえよ。見張りも出して、用心おこたるな	e	門徒頭	輩下
そのむね同じく、客間においでの姫御前にもお伝えもうせ	i	僧	寺臣
さあみなを急がせてくれ	i	侍	石工頭
車をどけて道をあけろ！	j	将軍	少尉
本部に出頭しろ。おれの事務所に直接こい！	j	大佐	少尉

表 3-4 「書籍」における指示表現 (4)

行動展開表現	資料	先行者	応答者
渡しておくように	e	師匠（親）	弟子（子）
読んでください	e	師匠	弟子
伝えなさい／ととのえなさい／講堂に集めなさい／敷きなさい／敷いてくれ／用意しなさい／出かけて行こう	h	師匠	弟子

表 3-4 には、親子でありながら、師弟関係となる二者の会話も含まれているが、表 3-5 のように、師弟関係にない親族関係でも、「かしこまりました」は用いられていた。

表 3-5 「書籍」における指示表現 (5)

行動展開表現	資料	先行者	応答者
すぐさま大夫さまの許に行き、ご挨拶してまいれ	i	舅	婿
されば客間の上座へご案内もうせ	i	夫	妻

舅に対して婿、夫に対して妻が「かしこまりました」で応答しているが、作品が戦国時代を舞台とした歴史小説であることから、親族内でも上下関係が強かった時代背景が影響していると考えられる。表 3-6 は、面識がない先行者と応答者の会話である。

表 3-6 「書籍」における指示表現 (6)

行動展開表現	資料	先行者	応答者
ご老体、こちらに待っていてください、お願いじゃ	i	侍	行商人
ともかく店の外に出るのじゃ	i	侍	元足軽

表 3-6 は、面識のない先行者と応答者の会話だが、絶対的な身分の上下関係が存在する時代背景から、侍に対して「かしこまりました」で応答したと考えられる。

表4 「書籍」における依頼表現

行動展開表現	資料	先行者	応答者
介添えをいたしてください	i	家来	家来

表4の例には、はっきりとした上下関係はなく、作品の中で二者は常に互いに敬意を示した話し方をしていた。この行動展開表現は、応答者に要求され、その決定権は応答者にあり、利益は先行者にあると考えられる。そのため、表4は「依頼」であると考えられる。つまり、「依頼」では上下関係がなくともよいと言える。

表5は、「かしこまりました」が「理解要請表現」の応答となっている例である。

表5 「書籍」における理解要請表現

理解要請表現	資料	先行者	応答者
荷物、明日造るわ	d	主人	家政婦
こちらが(人名)…(人名)だ、(略)ほくの従妹で、しばらく泊まることになる／彼女は…(略)…秘書役としてほくを手伝ってくれる	f	主人	召使い
(「キッチンで火に当たりながら召し上がってはいかがですか?」への返答) まだ入りません	f	客	宿のおかみ

表5の先行文は、理解要請表現であると考えられる。ただし、先行者と応答者には、上下関係があるため、応答者が理解以上のことを要請されていると捉えている可能性も否定できない。

7. 国会会議録の用例

国会会議録をコーパスとして使用し、「かしこまりました」の使用例を確認した。用例検索には、「国会会議録検索システム」(<https://kokkai.ndl.go.jp/#/>)〈2022.11.01 確認〉を用いた。検索は、開催日付平成元年1月8日第114回から令和3年12月31日第207回までとした。該当会議録は49件、該当箇所は51件となった。このうち、従属節内のものが4件あり、これは対象外とした。

表6は、行動は応答者であり、その行動への選択権は応答者にはない。利益は、先行者とまでは言えないが、応答者が望んだ利益が発生するわけではない。そのため、「指示・命令」であると考えられる。

表6 国会会議録における指示表現

行動展開表現	先行者	応答者
答弁は同様に簡潔にお願いします。／簡潔に。	委員長	政府参考人

感情で答弁をなさらないようにお願いします。	委員長代理	参考人
簡潔にお願いします。	委員長	議員
じゃ、政務官、意見として受け止めてください。	委員長	大臣政務官
収めるようにお願いいたします。／その辺でおやめください。／なるべく短くお願いいたします。	委員長	委員
調査の結果を（人名）委員に届けてください。／端的に質問に対して答えてください。／大きな声でお願いします。	委員長	政府委員
確認していただけますか。	委員長	証人
余り長くないように。	委員	大臣政務官
じゃ、それは後で提出していただくことにします。	委員	政府委員
あなたはその前の私の質問に対するきちっとした回答を含めて一緒に提出してください。	委員	証人

表6では、行動への決定権は応答者になかったが、表7は、決定権が応答者にある。表6は、利益は応答者にはないことを示していたが、表7では、利益は先行者にある表現である。つまり、表6は「指示・命令」だが、表7は「依頼」となる。

表7 国会会議録における依頼表現

行動展開表現	先行者	応答者
お約束だけしていただければ。	委員	大臣政務官
後ほどでも結構ですが、資料をいただけますか。／これに関しまして資料を提出していただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。	委員	政府委員
確認していただけますか。	委員	政府参考人
詳しく御説明いただけたらと思います。	委員	参考人
そういうお力を将来的に強くおかけくださいますようお願い申し上げます。	委員	国務大臣
前向きな理事会での議論をお願いしたいんですけども、いかがですか。／理事会で検討していただければと思いますので、よろしく願いをいたします。／ぜひ委員長には理事会で御検討いただきたいということをお願いしたいと思うんですが、いかがでしょうか。	委員	委員長
ちょっと書面を用意したのがございますので、皆さんに御配布願いたいと思います。	政府参考人	委員長

表6では先行者に委員長が多く、表7では先行者に委員が多い。また、表7では応答者に委員長が含まれる。これは、「指示・命令」では、委員長と委員のような上下関係が必要になることを示唆している。表6と表7を合わせると、用例数は26件であった。

表8は、先行文が理解要請表現の例である。

表8 国会会議録における理解要請表現

理解要請表現		
B1	それでも御存じないと言われますか。	分科員
A1	(略) 私には、直接、全くございません。	国務大臣
B2	かしこまりました。	分科員
A	(略) 今後も厳しい目で皆さんの会社を見詰めているということを申し上げて、質問を終わります。	委員
B	かしこまりました。	参考人
B1	僕はなられたときには本当にお幸せな方だなというふう思ったんですけども、僕の方が間違っているんでしょうか。	委員
A1	やはり、どなたがやられましても、どういう時代にあっても、薄水を踏むような思いでこの仕事をなさるのではないかと思います。	政府参考人
B2	かしこまりました。	委員

表8のような理解要請表現は21件であった。行動展開表現26件と出現数に大きな差があるとは言えない。また、「依頼」と理解要請表現では、応答者と先行者間に、必ずしも明確な上下関係は見られなかった。しかしながら、国会会議録とその他のコーパスとで出現に違いが見られたことから、「依頼」と理解要請表現には、蒲谷ほか(1998)の「場」のレベル、つまり、「改まり」と「くだけ」が関係し、「かしこまりました」の出現には「改まり」のレベルが高い必要があると言える。

8. まとめ

ここで「かしこまりました」の出現場面についてまとめる。「かしこまりました」は、サービスやビジネスで用いられやすい。また、先行文は、応答者に行動を求める行動展開表現の場合と、理解を求める理解要請表現とに分けることができる。

行動展開表現では、客と店員、上司と部下、主人と従者、委員長と委員のような上下関係がある場合、行動は応答者が行い、その行動の決定権は先行者にある。蒲谷ほか(1998)の類型表とは異なり、「かしこまりました」で応答する場合、利益は先行者にある、または、応答者がないことを示す。そして、表現意図は「指示・命令」である。

先行文が行動展開表現であるものの中には、行動は応答者が行うが、その決定権も応答者にあり、行動による利益は先行者にある表現もある。この場合、表現意図は、「依頼」となる。これは、明確な上下関係は要求されないが、「場」の「改まり」が要求される。そして、理解要請表現も、「場」に「改まり」が必要とされる。

ここで、第1章で提示した例1から例5を振り返りたい。

例1 また困ったことがあったら、すぐに連絡をくださいね。

例2 [授業名]が履修したい場合には、ご連絡ください。

例3 明日のお昼休みに追試験を行いたいのですが、来られますか？

例4 貸した教科書で、もう使わない教科書は返してください。

例1, 例2の「ご連絡ください。」では、「連絡する」という行動は応答者である学生が行う。その行動の決定権は、応答者にある。そして、その行動の利益は、「助けてもらえる」「履修が可能になる」ことにあり、応答者に与えられることになる。つまり、例1, 例2は、行動は応答者、決定権は応答者、利益は応答者となり、これは「指示・命令」にも「依頼」にも当たらない。そこに、「かしこまりました」を用いると、先行者が「指示・命令」や「依頼」をしているかのように捉えられ、利益が先行者にある、または応答者にはないかのように表現される。例3, 例4も同様である。例3の追試験の受験は、教員の利益ではなく、応答者である学生にある。例4の「使わない教科書を返す」ことは義務であり、返すことが先行者である教員の利益として表現するのは不自然である。「かしこまりました」で応答すると、その行動が先行者の利益であることになり、先行者のために応答者が行動するのだと表現されてしまう。このような理由から、「かしこまりました」は用いにくいのだと考えられる。

例5 人が多すぎたんだね。

例5は、「場」のレベルが関係する。個人的な内容を1対1でテキストチャットを用いてやりとりすることは、「場」の「改まり」が高いことだとは言えない。そのため、「かしこまりました」は、日本人学生からのテキストチャットには、見られないのだと考えられる。

では、例6はどのように考えられるか。

例6 明日は仕事終わったら来なはれや。

例6は、先行者が義父、応答者が娘婿であるが、そこには義父が娘婿の「出世を期待」、娘婿が義父に「財力を頼る」⁽⁹⁾ 関係があった。「来る」という行動は応答者がするが、その行動に対する決定権は先行者にある。「来る」という行動は、応答者が望んでいるものではなく、先行者が望んでいることであるため、利益は先行者にある。つまり、「指示・命令」の行動展開表現である。娘婿が「かしこまりました」で応答するのは、義父との間に上下関係があることを示し、更に、行動への決定権も利益も指示者であることを提示するためであると考えられる。

また、資料h (p.120) に次のような例があった。

例14 世尊1: 私はこれから汝たちのために、決して衰退しないような七種のことがらを説こう。

世尊2: よく耳を傾けて、はっきりと聴きなさい。そしてそれについて、充分によくこころに考えなさい。

比丘たち: かしこまりました。世尊よ、どうしてもお聞きたくぜひともお願いいたします。

比丘たちの「かしこまりました」を世尊2への応答であるとする、「聴く」ことの利益が世尊にあるように捉えられてしまう。しかし、この「かしこまりました」を世尊1の理解要請表現への応答であると考え、世に尊ばれる人である世尊のことばを大勢の比丘たちが聴く場面は「場」のレ

ベルが高いのだと考えれば、この例も他の用例と同様に説明をすることができる。

以上、本稿の結論として、「かしこまりました」で応答しやすい表現および場を表にまとめる。

表9

応答先の表現意図		行動	決定権	利益	場	関係
行動展開	指示	応答者	先行者	先行者にある 応答者にはない	ビジネス	上下関係
	依頼	応答者	応答者	先行者にある	改まり	
理解要請		理解のみ			改まり	

注

- (1) JapanKnowledge (2021.08.02) 「日本語どうでしょう？」第463回「かしこまりました」
(<https://japanknowledge.com/articles/blognihongo/entry.html?entryid=481>) 〈2022.11.04 確認〉
- (2) フジテレビ映像企画部『白い巨塔』vol.1 DVD ポニーキャニオン 2004
- (3) 『日本国語大辞典』第二版 小学館 2001 ジャパンナレッジ Lib 使用
(<https://japanknowledge.com/library/>) 〈2022.11.02 確認〉
- (4) 『デジタル大辞泉』第二版 小学館 2012 ジャパンナレッジ Lib 使用
(<https://japanknowledge.com/library/>) 〈2022.11.02 確認〉
- (5) 『日本国語大辞典』第二版 小学館 2001 ジャパンナレッジ Lib 使用
(<https://japanknowledge.com/library/>) 〈2022.11.02 確認〉
- (6) 森山卓郎「応答と談話管理システム」『阪大日本語研究』1巻 1989年3月 pp.63-88
- (7) 蒲谷宏・川口義一・坂本恵『敬語表現』1998.10 大修館書店 p.28
- (8) 記号を本稿の表記に変更して提示すると以下のようになる。

表現意図	行動	決定権	利益	典型的な表現
指示・命令	応答者	指示者	指示者／応答者／なし	シテクダサイ・シナサイ
依頼	応答者	応答者	指示者	シテモラエマスカ・クレマセンカ

- (9) フジテレビ映像企画部『白い巨塔』vol.1 DVD ポニーキャニオン 2004 DVD ケース裏面

参考文献

- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵『敬語表現』1998.10 大修館書店 p.28
 森山卓郎「応答と談話管理システム」『阪大日本語研究』1巻 1989年3月 pp.63-88

Kashikomarimashita as a Response Expression

Satoko KUROSAKI

Abstract

When and in what kinds of situations is *kashikomarimashita* ‘I understand, formal’ used? This article collects examples from conversations in several corpora, and classifies them by the intentions of the speaker in the preceding sentences and discusses the difficult situations in which *kashikomarimashita* is used.

Key words: Response expression, Expressive intention, Request expression, Imperative expression, Expression that demands to understand